

I 推計値の概要

1 農業総産出額及び生産農業所得（全国推計）

(1) 農業総産出額は、米の消費の減退による産出額の減少等を主たる要因として、平成26年まで長期的に減少してきたが、平成27年以降は2年連続で増加した。

平成28年は、米や野菜等の需要に応じた生産の進展等から、前年に比べ4,046億円増加し、9兆2,025億円（対前年増減率4.6%増加）と、平成12年以降で最も高い水準となった。

ア 米

米の産出額は、長期的には、食の多様化や少子高齢化の進展等により需要が減少した需給動向等を反映し、減少傾向で推移してきた。

平成28年は、前年に比べ1,555億円増加し、1兆6,549億円（同10.4%増加）となった。

この要因としては、平成27年産以降、需要に応じた生産の推進により超過作付が解消され、需給が改善し、主食用米の価格が上昇したことが寄与したものと考えられる。

表1 米の産出額の推移

区 分	単位	平成24年	25	26	27	28
実 額	億円	20,286	17,807	14,343	14,994	16,549
対前年増減率	%	9.7	△ 12.2	△ 19.5	4.5	10.4

イ 野菜

野菜の産出額は、長期的には、農家の高齢化等による作付面積等の減少に伴い減少傾向で推移していたが、平成8年の原産地表示の導入等を背景とした国産志向の高まり等により需要が堅調に推移し、近年は2兆円台前半で推移してきた。

平成28年は、前年に比べ1,651億円増加し、2兆5,567億円（同6.9%増加）となった。

この要因としては、近年の加工用や業務用への国産野菜を求める実需者ニーズへの対応により需給が引き締まる中で、秋の天候不順もあり、葉茎菜類及び根菜類等を中心に価格が上昇したことが寄与したものと考えられる。

表2 野菜の産出額の推移

区 分	単位	平成24年	25	26	27	28
実 額	億円	21,896	22,533	22,421	23,916	25,567
対前年増減率	%	2.6	2.9	△ 0.5	6.7	6.9

ウ 果実

果実の産出額は、長期的には、農家の高齢化等による作付面積等の減少に伴い減少傾向で推移してきたが、高単価で取引される優良品目・品種への転換が進展したことにより、近年は7,000億円台で推移してきた。

平成28年は、前年に比べ495億円増加し、8,333億円（同6.3%増加）となった。

この要因としては、夏場の少雨等で生産量が減少する一方、高糖度となる等、品質への評価が高まったことを受け、総じて価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表3 果実の産出額の推移

区 分	単位	平成24年	25	26	27	28
実 額	億円	7,471	7,588	7,628	7,838	8,333
対前年増減率	%	0.6	1.6	0.5	2.8	6.3

エ 生乳

生乳の産出額は、長期的には、後継者不足等を背景とした飼養戸数及び飼養頭数の減少による生乳生産量の減少に伴い、減少傾向で推移してきた。

平成28年は、前年に比べ77億円増加し、7,391億円（同1.1%増加）となった。

この要因としては、実需者が必要とする量の生乳を十分供給できていないことや生産コストの上昇等を背景に生乳取引価格が上昇したこと等が寄与したものと考えられる。

表4 生乳の産出額の推移

区 分	単位	平成24年	25	26	27	28
実 額	億円	6,874	6,824	6,967	7,314	7,391
対前年増減率	%	4.5	△ 0.7	2.1	5.0	1.1

オ 肉用牛

肉用牛の産出額は、長期的には、平成3年の輸入自由化に伴う輸入牛肉の増加や平成13年のBSEの発生等に起因する減少局面を脱し、近年は堅調な需要に支えられ価格が上昇し、増加傾向で推移してきた。

平成28年は、前年に比べ505億円増加し、7,391億円（同7.3%増加）となった。

この要因としては、と畜頭数が減少傾向で推移する中で、引き続き需要が堅調に推移するとともに、和牛改良の進展や飼養管理技術の向上等により高品質な牛肉の割合が増加したこと等が寄与したものと考えられる。

表5 肉用牛の産出額の推移

区 分	単位	平成24年	25	26	27	28
実 額	億円	5,033	5,189	5,940	6,886	7,391
対前年増減率	%	8.8	3.1	14.5	15.9	7.3

カ 豚

豚の産出額は、長期的には、平成3年の牛肉の輸入自由化以降、価格が下落した輸入牛肉への需要シフト等により減少したものの、平成7年以降は、離農により飼養戸数が減少傾向で推移する一方、大規模化が進展したことから、横ばいで推移してきた。

平成28年は、前年に比べ92億円減少し、6,122億円（同1.5%減少）となった。

この要因としては、需要が堅調に推移しているものの、平成26年から27年にかけての豚流行性下痢（PED）の発生の影響等を脱し、と畜頭数が増え、高水準で推移していた価格が落ち着きつつあること等が寄与したものと考えられる。

表6 豚の産出額の推移

区 分	単位	平成24年	25	26	27	28
実 額	億円	5,367	5,746	6,331	6,214	6,122
対前年増減率	%	0.1	7.1	10.2	△ 1.8	△ 1.5

(2) 生産農業所得は、農業総産出額が減少傾向で推移してきたこと、肥料費、飼料費、光熱動力費等の主要な農業生産資材価格が大きく上昇したことにより、平成26年まで長期的に減少傾向で推移してきた。

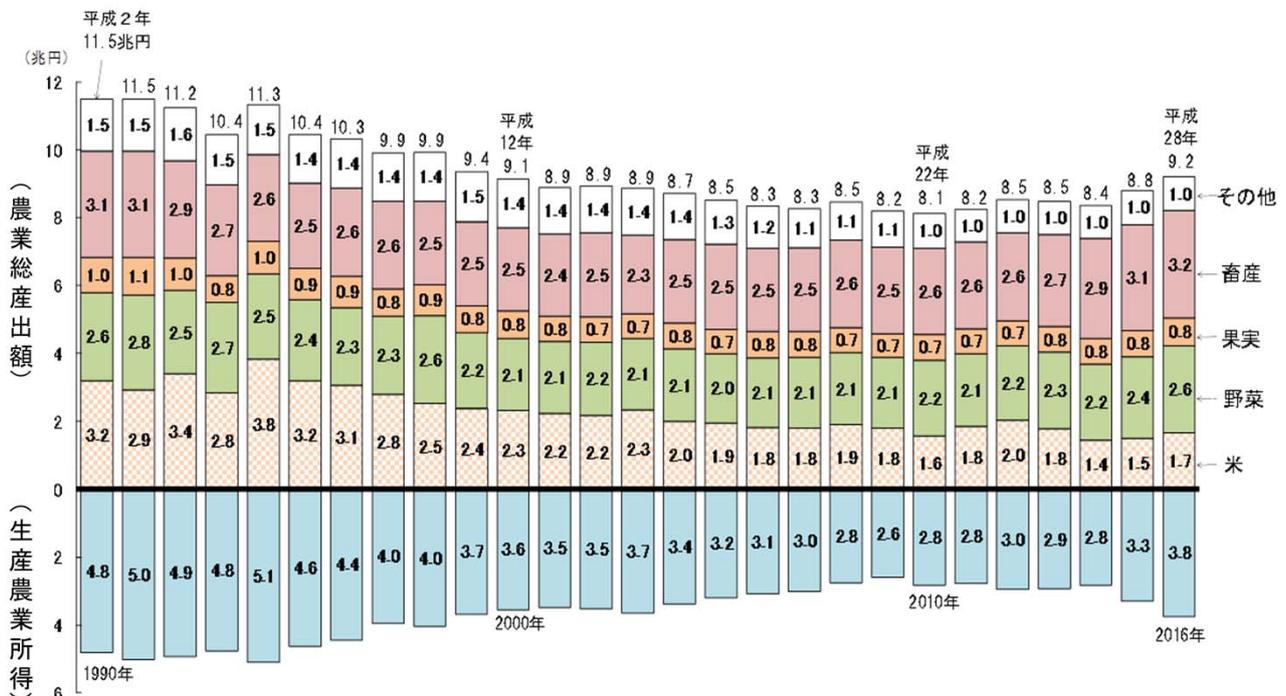
平成28年の生産農業所得は、前年に比べ4,666億円増加し、3兆7,558億円(同14.2%増加)となった。

この要因は、平成27年以降、農業総産出額が増加に転じたこと等が寄与したものと考えられる。

表7 生産農業所得の推移

区 分	単位	平成24年	25	26	27	28
実 額	億円	29,541	29,412	28,319	32,892	37,558
対前年増減率	%	6.3	△0.4	△3.7	16.1	14.2

図1 農業総産出額及び生産農業所得の推移



2 農業産出額及び生産農業所得（都道府県別推計）

- (1) 平成28年農業産出額の都道府県別順位は、1位が北海道で1兆2,115億円、次いで茨城県が4,903億円、鹿児島県が4,736億円、千葉県が4,711億円、宮崎県が3,562億円の順となっている。

表8 農業産出額上位5都道府県

単位：億円		
順位	都道府県	産出額
1	北海道	12,115
2	茨城県	4,903
3	鹿児島県	4,736
4	千葉県	4,711
5	宮崎県	3,562

- (2) 主要部門について都道府県別の農業産出額合計に占める割合が最も高い都道府県をみると、米は新潟県が9.0%（1,484億円）、野菜は北海道が8.6%（2,206億円）、果実は青森県が10.2%（854億円）、肉用牛は鹿児島県が17.0%（1,245億円）、乳用牛は北海道が51.6%（4,712億円）、豚は鹿児島県が11.7%（723億円）、鶏は宮崎県が9.6%（880億円）を占めている。

図2 主要部門における農業産出額の都道府県の構成割合

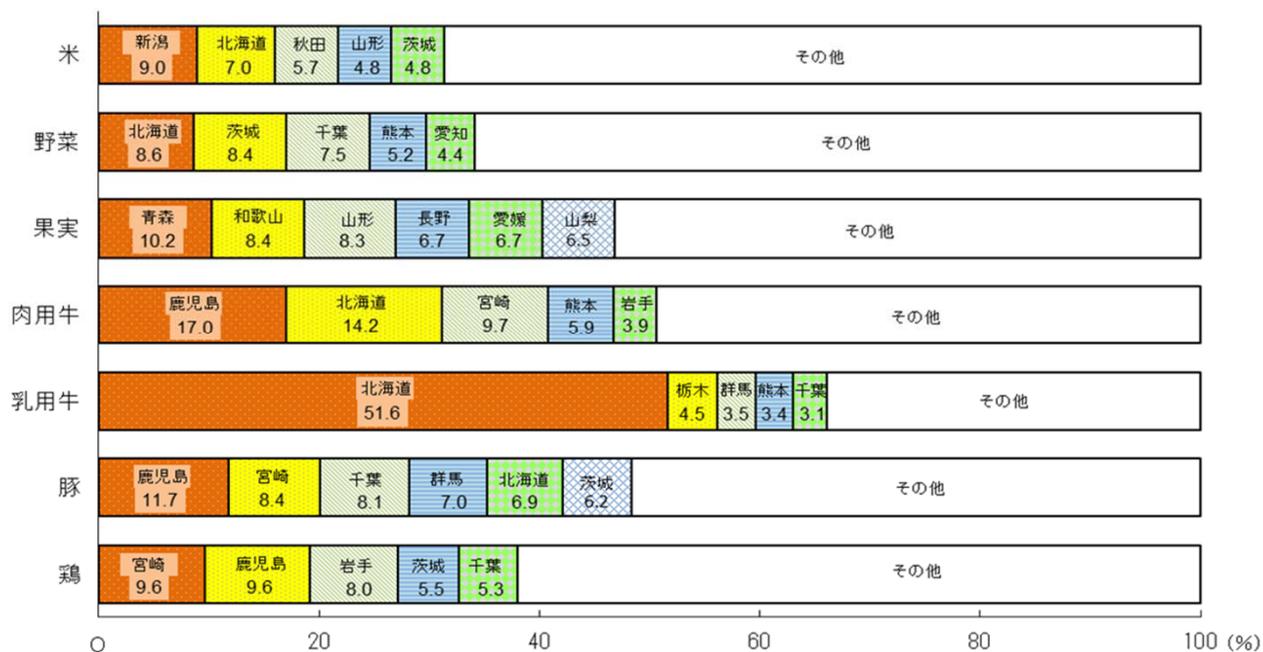


表9 平成28年主要農畜産物における上位5都道府県の産出額と構成割合

都道府県	1位 米		都道府県	2位 生乳		都道府県	3位 肉用牛	
	産出額	構成割合		産出額	構成割合		産出額	構成割合
	億円	%		億円	%		億円	%
合計	16,579	100.0	合計	7,406	100.0	合計	7,334	100.0
新潟	1,484	9.0	北海道	3,641	49.2	鹿児島	1,245	17.0
北海道	1,167	7.0	栃木	349	4.7	北海道	1,041	14.2
秋田	944	5.7	群馬	260	3.5	宮崎	708	9.7
山形	804	4.8	熊本	257	3.5	熊本	432	5.9
茨城	794	4.8	千葉	244	3.3	岩手	288	3.9

都道府県	4位 豚		都道府県	5位 鶏卵		都道府県	6位 ブロイラー	
	産出額	構成割合		産出額	構成割合		産出額	構成割合
	億円	%		億円	%		億円	%
合計	6,162	100.0	合計	5,192	100.0	合計	3,452	100.0
鹿児島	723	11.7	茨城	447	8.6	宮崎	730	21.1
宮崎	517	8.4	千葉	381	7.3	鹿児島	584	16.9
千葉	499	8.1	鹿児島	272	5.2	岩手	545	15.8
群馬	430	7.0	広島	263	5.1	青森	210	6.1
北海道	424	6.9	岡山	246	4.7	北海道	164	4.8

都道府県	7位 トマト		都道府県	8位 みかん		都道府県	9位 いちご	
	産出額	構成割合		産出額	構成割合		産出額	構成割合
	億円	%		億円	%		億円	%
合計	2,574	100.0	合計	1,761	100.0	合計	1,749	100.0
熊本	491	19.1	和歌山	308	17.5	栃木	285	16.3
北海道	210	8.2	愛媛	276	15.7	福岡	196	11.2
愛知	176	6.8	静岡	275	15.6	静岡	109	6.2
茨城	174	6.8	熊本	168	9.5	長崎	103	5.9
千葉	143	5.6	佐賀	148	8.4	熊本	102	5.8

注：主要農畜産物については、品目別産出額（都道府県別の合計）の上位品目である。